



実りの秋、読書の秋、そして…食欲の秋です♡
そこで、わたしのこどもの頃の思い出話をお話しますね♡

わたしは、とにかくわんぱく、いたずらっ子でした。
物心ついた頃からの記憶をたどると…

隣の家の木に登り、突っていたいちじくの実をもぎとり道路に
向かって投げて喜んでいました。野原を裸足で駆け回り足の裏にくぎ
がささり多量の出血、兄におぶわれ泣きながら家に帰ったのも、
その頃でした。

母がドレッサーの前に座りお化粧しているのを見て「わたしも!!」
と思い、母のリップをいっぱい いっぱい回レクレーション状態になった
のを見て、ドレッサーの鏡に「へへのもへじ」の絵を描き、そのま
まフタをしめ、知らん顔。後で母の悲鳴が聞こえました。

せみが嫌いだという母に少しでもせみの可愛らしさを伝えよう
と、「お母さん、目つぶって」と言い、母の目の前にせみをパッと出し、
またまた母の悲鳴!!

わたしの母は当時髪が長く背中までありました。ある日、その髪を
はさり首まで切ってきたのです。「へん! 似合わない」と思ったわ
たしは押し入れにこもり丸一日出てこなかったのです。

別の日、友だちの家で遊んだ後、道の反対側に買い物帰りの
母を見つけたわたしは「おかあさん!」とわきめもふらず道へ飛び出
し、走ってくるバイクにひかれました。幸い、バイクに乗っていたおじ
さんはスローペースな走りでわたしの寝転んだ身体の上にゆっくり
のった状態だったようで、病院にかつぎこまれたわたしは傷ひ
とつありませんでした。おじさんが恐縮して持ってきてくれた大き
な箱に いっぱい入ったケーキにうっとり。次の機会をねらって母

に思いっきり叱られました。

またまたある日のこと、真っ赤なくつが欲しいと祖母と靴屋さん
に買い物に出かけた日のこと。わたしの欲しい真っ赤な靴がない!
店のおばさんが「これはどう?」と何足か勧めてくれたにも
関わらず、わたしはそれが気に入らない。「やだ」「気に入らない」
の繰り返し。見かねたおばさんが祖母に同情し「わがままな子
だねえ」と言ったひと言に対する祖母の返しが…「そりゃ、この
子の好みの靴がないんだから当たり前。この子好みの真赤な
靴を仕入れといてくださいね。」さすがわたしの祖母ですよ♡

これらの思い出はざっと三歳から四歳頃だと記憶しています。
まあとにかくすごかったのです。若いママたちは知らないかもし
れませんが「うずきゅうめいがん」というお薬があり、しょっちゅう飲
まされていたことも記憶しています。多分、この頃がわたしの
いたずらのピークだったのかも矢口れません。

思春期以降も わくわくドキドキの心ときめくいたずらはち
らほらありました。

高校1年の時、担任の先生の頭がテカテカだったのです。それ
が夏休みが明け2学期が始まった時には何とフサフサになっ
ていたのです。友だちと相談したわたしは、ある日、担任の先生
に後ろからそっと近づき髪を一気にさつと外しました…。後は
ご想像の通り、大変な事態に。わたしの母が学校に呼び出
されたのは何度目でしょう♡

わたしの母は、わたしが34歳の時に亡くなりました。わたしを
育てた母は、さぞ大変だったことでしょう。当時はADHDに対する
知識も認知度も全くない時代だったので、わたしの在りようは
「わがまま」「大変な子」というくりでかたづけられていたと思っ
ます。それでもわたしの母は、子育てが楽しくて仕方なかったそうです。

ただ一度だけ、「実は大変な時期があった」とふともらったこ
とがありました。今となっては聞けませんが、たぶん「この子は

この子のままで良い!」と思えるまでが「大変な時期」だったのだと思います。

母はわたしを「ありのままのわたし」として尊重して育ててくれました。たぶんADHDだと思われるわたしは、自己否定することなく、落ち込むことなく、立ち止まることなく、自分の思うがままに「自己中」を貫き通してきました。わたしは母にとってもとても感謝しています。

2学期、いかがお過ごしですか? 運動会などの行事が入る方もいらっしゃるでしょう。それぞれのお子さんに無理なく、マイペースで様々な行事に参加出来ると良いですね。11月には放課後等デイサービスの保護者会があります(2021年11月15日(月))
話したい話題などがあればお知らせください♡

❀お知らせ❀

★ アンケートにご協力頂き ありがとうございます!
まだの方は ご持参くださいますようお願いいたします。

★ 放課後等デイサービス保護者会

11月15日(月) 10:00~

参加を希望される方は職員までお知らせください♡



ままのりあ

〒252-0324
相模原市南区相武台1-21-5
電話 046-244-4537
FAX 046-244-4538